

第5学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

授業日 11月2日(金)

場 所 5年1組教室

授業者 山野邊 香緒里

1 単元名 「あらかわ特産物のよさを発見！」

2 単元の内容

(1) 探究課題

探求的にかかわりを深める対象	あらかわ特産物のよさとその生産に関わる人々
設定理由	<p>5年生の総合では、社会科の学習で農業や食料生産の学習を行ったことと関連付け、「荒川地区の特産物」について学習を進めていく。あらかわの特産物は、岩船米、クロッカス、里芋、枝豆、いちご、オータムポエムなど実に多い。また、周囲に稲作や農業等に従事している方が多くいることから、地産地消のよさ、生産者の思いなどに直接触れることができる。そこで、「荒川地区の特産物のよさは何か」という共通課題を設定し、特産物について調べたり、実際に野菜を作ったりしていく。その中で、あらかわ特産物のよさに気付かせ、「あらかわ特産物のよさを広く伝えたい」という願いを持たせたい。</p> <p>この願いをもとに、「あらかわ特産物の生産に関わる人々の思いは何か」という追究課題を設定し、栄養教諭、農協、市役所、生産者の人々と共に学習を進めていく。一人一人の追究の中から、荒川地区の魅力について農・食を通して考えたり、地域農業活性のために尽力している方々の思いに触れたりすることを通して、地域の生産者と地域の消費者をつなぐ「架け橋」として、地域に貢献しようとする態度を育てたい。</p>

(2) 育成を目指す資質・能力

育てたい資質・能力		具体的な内容
知識・技能	知識	<ul style="list-style-type: none"> あらかわの特産物、農作物のよさ 農作物の栽培方法・調理方法・栄養価 生産者の思いや工夫、こだわり 荒川の農業の現状と課題、地産地消
	技能	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み、必要な情報を取り出す インタビューしてメモを取る 聞きたいことをはっきりさせて、流れに沿って質問する 見聞きしたことをまとめる
思考力 判断力 表現力 等	課題設定力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の知識や経験から予想することを通して課題を設定する力 得た情報から新たな課題を設定する力 目標達成までの活動を計画する中から課題を設定する力
	情報収集力	<ul style="list-style-type: none"> インターネットのキーワード検索や本を利用して信頼できる情報を収集する力 課題に応じて見学・体験したり、インタビューしたりして情報を収集する力 言語や画像によって、見たり聞いたりしたことを蓄積する力

	整理・分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・統計的にまとめられた資料を分析し、考察する力 ・収集した情報を表やグラフ、図等に整理する力 ・思考ツール等を利用して、序列化、比較、分類、関連付け、焦点化して分析する力
	表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識や目的意識を明確にし、必要な資料を作成して説明や報告、討論、提案などをする力
学びに向かう力 人間性等	主体性	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの思いや願いに気付き、行動を計画したり、実行したりする力
	内省	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを振り返り、自己の変容や学習の価値を考える力
	協働	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集したり情報を整理分析したりするために、意見を出し合い協力する力 ・自分になかった考えを受け止め、課題の解決に生かそうとする力
	社会参画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化に貢献しようとする態度

3 探究課題に関する情報・考えるための技法等

○探究課題に関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかわ直売所見学 ・村上市うまいもんマップ ・市建設課の方の話・生産者へのインタビューと栽培方法指導 ・野菜栽培体験・バケツ稲栽培体験 ・「農業生産に関わる人々」社会科教科書
○課題解決のために活用される考えるための技法 (見方・考え方)	比較、関連付け、分類、序列化、評価、内省
○考えるための技能を可視化するためのツール	ウェビングマップ、KJ法、クラゲチャート、ピラミッドチャート、ベン図

4 単元の展開

探究活動 どんな課題を設定し、どうやって情報を収集、整理・分析し解決していくか	育てたい力等との関連 (評価規準)
<p>(1) 導入の活動・課題の設定 <1～2時></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3、4年生で学んできた「荒川地区のよさ」を想起させる。 <p>○荒川地区で作られている物について想像を広げる。自分たちがほとんど知らないことを実感させ、調べていきたいという課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>あらかわ特産物では、どんなものが有名なのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒川地区の農作物について知っているものを挙げる。 ・分からなさを実感させることで、共通課題を設定する。 ・どのように調べていくかを考える。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>過去の学びとつなぐ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇整理・分析力 ウェビングマップを用いて、既有知識を整理する。 ◇主体性 自らの思いに基づいて、行動を計画する。
<p>(2) 情報の収集① <3～8時></p> <p>○自ら考えた方法で情報を収集していくことで、困り感を抱かせる。そこから新たな調べ学習の方法を見出し、実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒川地区で農作物について情報を収集する。 <p>(例) 鮭、枝豆、里芋、米、味噌、醤油、茶、クロッカス オータムポエム、アスパラガス、人参 など</p> <p>【方法】 家族へインタビュー、インターネット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇情報収集力 保護者、生産者へのインタビュー、本やインターネットで地元の農業に関する情報を収集する。

- ・インターネットや本では、荒川地区の特産物については、自分の知りたいことが詳しく調べられないことを知る。
- ・あらかわの特産物について、もっと詳しく調べたい。

学習課題 あらかわ特産物について、もっと詳しく調べる方法はないだろうか。

◇課題設定力
 困り感に基づいて、解決する方法を考える。

- ①上記の課題に対して、考えられる方法を出し合う。
 (例) 野菜の作り手へのインタビュー、米や野菜作り体験、ひだまり農産、栄養教諭、あらかわ直売所への見学。

経験とつなぐ

他者をつなぐ(生産者)

- ②あらかわ直売所への見学、質問の準備をし、見学への見通しをもたせる。

教科とつなぐ 【国語…きいてきいてきいてみよう】
 インタビューの仕方

- ③野菜作り、米作り体験の準備をする。
 →秋に収穫でき、今から作ると時期的に良い荒川地区の野菜の育て方を知る。

教科とつなぐ 【社会…食料生産を支える人々】
 米作りカレンダーの読み取り

(3) 情報の収集② <9~15時>

他者との関わりに重点をおいたより深い情報収集

共通課題 あらかわ特産物について、詳しく調べよう

◇情報収集力
 必要な情報を収集するという目的を踏まえて、インタビューをしたり、教えてもらったことを記録したりする。

- 生産者や行政の方との関わりをもとに、より詳しい情報を得たり、実際に体験を行ったりする。

- ①あらかわ直売所を見学、地域の方と生産者との密接なつながりを知る。

他者をつなぐ(生産者)

- ②地場産野菜の試食
 →野菜サラダ、手作り味噌の味噌汁、カレーを作って食べる。
 →枝豆農家の玉木さんの枝豆の味を試食する。

教科とつなぐ 【家庭科…はじめてみようクッキング】ご飯とみそ汁の調理方法

- ③市土木課の方から荒川地区の農業の現状と地産地消についての講話を聞くことを通して、荒川地区の農業の情報を集める。
 →農家の戸数や農業従事者は年々減っているが、一戸あたりの農業面積は増えている。
 →機械化、AI化が進んでいるが、機械を操作するのは人。

他者をつなぐ(行政)

◇知識
 農業に関わる現状。

- ④栽培活動
 ・バケツ稲作り
 ・里芋作り
 ・枝豆作り
 →観察、世話、記録をグループ毎に交代で行う。困ったこと、質問は、名人に聞きながら解決する。

教科とつなぐ 【社会…食料生産を支える人々】
 農業人口の変化の読み取り

◇技能
 農作物の育て方。

- ⑤秋に旬を迎える野菜を使った給食のおかずを考え、作る。
 →栄養バランス、調理方法なども考える。

他者をつなぐ(生産者)

教科とつなぐ 【家庭科…五大栄養素の学習】
 様々な食材に含まれる栄養素の理解

<p>(4) 整理・分析 <16~17時></p> <p>○これまでの調べ学習，体験，見学で分かったこと，もっと知りたいことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 教科とつなぐ【国語…活動報告書】 事実と考えを区別した報告文の書き方 </div> <p>・自分たちの調べたことや体験したことを，色々な人に伝えたいという思いを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 共通課題 あらかわ特産物の素晴らしさを伝えよう </div> <p>・自分が特に伝えたいと思ったものを，実際に栽培した米，枝豆，里芋のグループに分かれてまとめる。</p>	<p>◇整理・分析力 付箋に集めた情報を書き，KJ法で分類，整理する。中間発表会のためにどの情報を優先して記事にするか，ピラミッドチャートを用いて順番をつける。</p> <p>◇課題設定力 自分たちの思いと現状のズレから課題を設定する。</p>
<p>(5) 情報の収集・体験，まとめ <18~22時> 個の追究課題に重点をおいたより深い情報収集</p> <p>①枝豆畑，里芋畑，バケツ稲の観察と農家さんの畑や水田を見学し，比較する。（グループ活動）</p> <p>②畑の枝豆を収穫し，試食する。→枝豆農家さん（玉木さん）の枝豆と，味を比較する。</p> <p>③農家の方の，栽培へのこだわりや工夫を聞く。 枝豆農家：玉木さん 里芋農家：齋藤さん お米作り：ひだまり農産</p> <p>④収集した情報を基に，家の人にあらかわ特産物のよさを伝えるための準備をする。</p>	<p>◇課題設定力 地元の野菜作りの課題を踏まえ，自分たちがその解決のために何ができるのかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 他者とつなぐ(生産者) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 教科とつなぐ【国語…きいてきいてきいてみよう】インタビューの仕方 </div>
<p>(6) まとめ・表現1 <23~28時></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 家の人知らないあらかわ特産物の良さを伝えよう </div> <p>①家族へのアンケートから，家族が知らないあらかわ特産物の情報を整理・分析する。</p> <p>②壁新聞を分担して作り，発表を行う。</p> <p>③お家の人の感想，反応をもとに，次の発信への願いをもつ。</p>	<p>◇課題設定力 自分たちの思いと，お家の人へのアンケート結果とのズレから課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 他者とつなぐ(家の人) </div> <p>◇協働 相手の考えを聞き，自分の考えと比べながら発表の内容を検討する。</p>
<p>(7) まとめ・表現2 <29~34時></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 小学生が知らないあらかわ特産物のよさを伝えよう </div> <p>①校内の小学生へのアンケートから，小学生がよく知らないあらかわ特産物の情報を整理・分析する。</p> <p>②給食オリジナルメニューを食べる週に，音声，映像，ポスターなど，分かりやすい方法を考えて伝える。</p> <p>③小学生に伝えるための準備をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> 追究課題 自分が考えた分かりやすい方法で伝えよう。 </div>	<p>◇課題設定力 自分たちの思いと，小学生へのアンケート結果とのズレから課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 他者とつなぐ(児童) </div> <p>◇協働 相手の考えを聞き，自分の考えと比べながら発表の内容を検討する。</p>

<p>(8) まとめ・表現3 <35~46時> 本時</p> <p>①お家の人、小学生への発表の反省を踏まえて、今度は更に発信の対象を広げたいという思いをもつ。</p> <p>②「生産者の思い」を知り、「5年生の思い」とのズレを実感する。</p> <p>③生産者の思いを受け、「<u>生産者と消費者の架け橋</u>」として、地域の消費者に伝えなければならないことは何かを考える。</p>	<p>◇協働 相手の考えを聞き、自分の考えと比べながら発表の内容を検討する。</p>
<p>本時学習課題 私たちが「地域の消費者」に伝えなければならないことは何か。</p>	
<p>④地域の消費者に伝えるにはどんな内容がよいかを考え、今までの消費者視点の情報と比較し、整理する。</p> <p>⑤整理した情報を他グループと交流し合う。</p> <p>⑥自分の伝えたいものを確認する。(本時ここまで)</p>	<p>他者とつなぐ(生産者・地域の人)</p>
<p>⑦情報を伝えるために効果的な方法を考える。</p> <p>追究課題 自分の選んだ方法で、生産者の思いを伝えよう。</p> <p>⑧地域の人へ働きかける準備をする。</p> <p>⑨直売所、スーパーの直売コーナー、地域イベントへの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の方々の喜び・努力、地元の野菜作りのよさを伝える。 ・地産地消のよさを伝える。 ・おいしい食べ方、栄養価を知らせる。 	<p>◇表現力 学習してきたことや伝えたいことを明確にして、提案する。</p>
<p>(9) まとめ <47~48時間></p> <p>○あらかわの特産物について学習する前と、地域の「生産者と消費者の架け橋」として活動した後を比べて、地元の特産物や農業に対しての自分の考えがどう変わったのか、学んだことや考えたことを中心に作文を書いて学習の振り返りをする。</p>	<p>◇意思決定 学びを振り返り、自己の変容や学習の価値を考える。</p>

【まとめの場面で期待する児童の記述例】

私は実際に野菜や米を育ててみたり、生産者の話を聞いたりして、野菜を作る上で、雨が降らないなど厳しい気候条件があったり、土がだめだと育たなかったり、農業人口減少や高齢化の問題があったりするなど、たくさんの苦労や課題があることを初めて知りました。

また、あらかわの野菜を使った加工品やお菓子がたくさんあったり、旬の野菜のよさを生かした調理法があったりすることも分かりました。そして、地元の野菜は、生産者の方が苦労や工夫を重ねて作ったものであること、安心、安全で新鮮であること、なによりとてもおいしいことが分かりました。

このようなおいしい「あらかわの特産物」を、私はとてもほこりに思うし、その特産物を作っている人達も素晴らしいと思います。その人たちの作っている特産物を多くの人に食べてもらい、そのよさが分かってもらえるように、これからも自信をもっておすすめしていききたいし、たくさん食べたいです。

5 単元の指導の構想

(1) 「荒川地区の特産物とそのよさ」を確認させる **ア 課題設定**

社会科「食料生産を支える人々」において、日本の各地域の特色と特産物について学習した事と関連させ、自分たちの住む荒川地区について調べる活動を行う。ところが、インターネットや本で調べると、村上中心部の特産物についての情報はあがるが、荒川地区の特産物に関するものは少ない。このことから、「荒川地区の特産物について、直接出向いて調べたい。」という思いを持たせ、農業に携わる人々へのインタビューや農業体験を通して理解を深めさせたい。そして、「調べて分かったあらかわの特産物のよさを広く知らせたい」という児童の思い、願いを大きく育てていく。

(2) インタビュー、講話、体験、本などから情報収集をさせる。 **イ 情報収集**

身近な情報源として、生活経験や既習の経験から、「あらかわ直売所」「ひだまり農産」「家族や親戚、地域で農業に従事している人」を想起させ、インタビュー活動や見学を行う。また、「あらかわ直売所」では、インタビューや見学等の学習活動に加え、家庭科調理実習等の材料を購入する場としても活用し、実際に味わうと共に、生産者の方から調理におすすめの旬の野菜や、おいしい食べ方を教わる。

体験活動として、学校の畑等を利用し、**バケツ稲・枝豆・里芋の栽培を行う**。活動の中で、種や苗の植え方、世話の仕方、病害虫の対応、収穫のタイミングなど、地域の生産者の方に「畑の先生」としてその都度アドバイスをいただきながら活動させる。また、生産者の方の畑や水田と自分たちの畑を比較させることで、生産者の工夫や技、苦労にも気付かせたい。さらに、秋に旬を迎えるあらかわ産の野菜を使った**給食オリジナルメニュー**を考えさせる。作られたメニューの中から、栄養教諭に10月の献立として採用してもらい、全校児童にも実際に食べてもらう。これらの情報収集の中で、本やインターネットからは違う、**地域に根差した生きた情報**も収集することができる。と考える。

また、地元の農業の統計的な数値や現状を調べるために、村上市土木課の方からも話を聞き、資料と情報を提供していただく。**社会科「米づくりのさかんな地域」**で学習した米作りの知識と合わせ、生産者の工夫や課題についての現状を把握できると考える。

(3) 知り得た情報の中から、伝える相手にふさわしい情報を取捨選択させる

ウ 整理・分析

エ まとめ・表現

調べて分かったことや思いを伝えるために、まず、**家族を相手に活動の中間報告会**を設定する。家族に対して発表することは、思いが伝えやすく、また発表に対する抵抗感も少なく、中間発表の場としてはふさわしいと考える。児童の家族からはあらかじめアンケートをとり、「家族が知らないあらかわ特産物のよさ」を伝えることを目的に、新聞作りと発表に取り組みさせる。ここでは、持ち寄った情報からピラミッドチャートやベン図を利用して情報を整理させる。そして、**国語科「新聞を読もう」**の学習をもとに、見出し、写真や図、グラフの効果的な配置を考えて行わせる。

(4) 中間発表をもとに、伝える相手をかえて発表するための準備をする。

ウ 整理・分析

エ まとめ・表現

中間発表会后、家の方の感想と自らの振り返りをもとに、次は**校内の児童を伝える相手**とし、10月中旬の**自分たちで考えた「旬の地場産野菜を使った給食」**とともに、あらかわ特産

物のよさについて紹介する。ここでもあらかじめ児童にアンケートを取り、「小学生が知らないあらかわ特産物のよさ」を伝えることを目的とする。伝える内容や伝え方を、小学生にふさわしいものは何かを考えながら、整理・表現させる。表現方法としてはビデオ放送や音声での校内放送での紹介、校内掲示用ポスターなど、前回とは違った方法も取り入れ、表現方法に幅を持たせたい。

(5) 生産者の思いに触れ、自分たちの思いと比較し、情報を選択する。(本時)

校内の他学年を相手にした「あらかわ特産物」の紹介で、児童は満足したり、この経験を生かし「あらかわの特産物のよさ」をさらに広げていきたいという思いを持ったりするだろう。しかし、例えば「テレビ等で広く知らせ、たくさん売りたい。」「SNS等で海外のサッカー選手にも見て欲しい。」という児童の思いは、生産者の思いを考えていない、自分だけのものがある。ここで、生産者の方の野菜づくりに対するこだわりや思いが地域の消費者に向いていることや、生産者としての願いを聞くことで、**地産地消のよさ**を改めて確認させたい、そして、地域の消費者に対し、「あらかわ特産物のよさ」を伝えるために、自分たちには何ができるかを考えさせる時間としたい。そうすることで、**生産者と消費者をつなぐ「架け橋」**として、児童が主体的に地域に貢献しようとする態度の育成につながると考える。

6 本時の構想

(1) 本時のねらい (35/48 時間目)

生産者の思いを聞き、「5年生の思い」と「生産者の思い」を比較することを通して、地域の消費者と生産者をつなぎ、消費者に伝えるべき内容を考えることができる。

(2) 本時の構想

① 「5年生の思い」と「生産者の思い」を比較し、ズレを実感させる。

児童は、お家の方、小学生を相手に2回の発表を経験し、十分満足したという思いや、さらに「全国、全世界」など、伝える相手を外へ広げたいなどの願いをもっているであろう。しかし、ここで「生産者の思い」を聞くことで、「自分たちの思い」とのズレを感じさせたい。相手意識と思い願いを構造的に板書し、比較させることで、伝えるべき相手は「地域の消費者」であることや「伝えるべき内容を考えなければならない」という探究意欲を高めたい。

② 生産者と消費者をつなぐ「架け橋」という立場から、課題設定をする。

生産者の「架け橋」という言葉に着目させ、「どう感じたか」を問う。児童は就学児童健診などの活動から人と人をつなぐ重要な役割が「架け橋」であることを経験している。そのことを想起させることで「自分たちが重要な役割」を担うことを実感できるであろう。このことは、児童の探究意欲を高めるだけでなく、伝えるべき内容も生産者にも消費者にも寄り添った内容でなければならないと実感するであろう。自分たちがこれから行っていくことや考えていくことの価値を、教師と児童が対話していくことにより、本時の学習課題である「私たちが『架け橋』として地域の消費者に伝えなければならないことは何か」につなげていく。

③ 思考ツールを使用したり、ワールドカフェを行ったりすることで、対話的な学びを促す。

本時では思考を可視化し、対話を促すための思考ツールとして「ベン図」を使用する。ベン図には「生産者が知っていること」「消費者が知っていること」「どちらも知って

いること」の枠がある。伝えるべきことはベン図のうちの、『生産者だけが知っていること』の部分になることを確認する。児童は前時までに伝えたいことの項目を付箋に書いているため、その付箋をベン図に張り付ける作業から行う。こうすることで自分たちの付箋がどの枠に入るのかの対話が生まれる。また、『生産者だけが知っていること』の枠に入ったうち、一番伝えたい内容を考える。この活動からも児童の対話と、対話による思考の深まりが期待できる。

その後、ワールドカフェ形式で他のグループから情報を集める。集めた情報をもとに再度グループで対話を行うことで、さらなる思考の深まりが期待できる。

④ 授業の振り返りを個人で行うことで、学びの深まりを実感させる。

グループでの対話に重きが置かれている本時ではあるが、最終的には個人で「最も伝えたい内容」と「その理由」を記述させる。こうすることで個の学びを確認させるとともに、前時までの記述との差から、学びの深まりを実感させたい。この学びの深まりの実感は、これからの単元での学びの探究意欲にもつながると考えられる。

⑤ 教師が意図的につなぐ場面を設けることで、学ぶことの価値を実感させる。

「過去の学びとつなぐ」「教科とつなぐ」「他者とつなぐ」

授業の中で教師が意図的に「つなぐ」場面を設けることで、つなげながら学ぶことの価値の有効性を実感させていく。本時においては例えば、「4年生の総合でこれまでの発表の経験から、『相手が知らない事に着目して伝えた』経験を想起させることで、**地域の消費者への相手意識**を考えさせる」「社会科『これからの食料生産』において、地産地消や、よりよい作物を作る生産者の工夫を学んだことを想起させ、**自分たちがやりたいことが、生産者と消費者をつないでいるか**を意識させる」「思考ツールやワールドカフェを行うことで他者と関わりながら考えさせたり話し合わせたりすることによって、思考が深まったことを実感させる」などがつなぐ場面として考えられる。

(3) 展開

時間	主な学習活動と予想される児童の姿	○授業者の働き掛け ・留意点
5	<p>1 これまでの活動を振り返る。</p> <p>【他学年、職員からのアンケート】（予想） 荒川の特産物がこんなにおいしいとは知らなかった。 黄金の里芋というのを初めて知った。 岩船米がブランドとは知らなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生が知らない事を教えられてよかった。 相手意識 こんなに反響がある。もっとよさを知らせたい。思い・願い インターネットで全世界に知らせたい。 全国の小学生にも知らせたい。 相手意識 	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体の活動の様子を映像で振り返らせる。 給食紹介のビデオと、反響を確認する。 アンケート結果をテレビに映す。 前時までの振り返り <p>○発問 家族や、小学生に特産物の紹介をしてきて、どのようなことを感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の振り返りの記述から、意図的指名をする。思い・願いの共有 出てきた意見を「5年生の思い」として、構造的に板書する。その際「相手意識」「思い・願い」を明確にしていく。構造的な板書

<p>15</p>	<p>2 生産者の方の思いを聞く。</p> <p>【生産者の方のインタビュー】</p> <p>米・里芋生産者／齋藤さん 米、里芋について・・・里芋は、全国に売り出すほどの量はまだ作っていない。地産地消を目標にしているから。おいしい土といい環境でできた米、野菜に誇りをもっている。 消費者に対して・・・多くの地元の人に地物のおいしさを知ってほしい。米は、実は魚沼米より岩船米が安くておいしい。 5年生に対して・・・地産地消のよさを、たくさんの方の地元の人に知らせてほしい。</p> <p>枝豆・野菜生産者／玉木さん・・・ 枝豆について・・・収穫してすぐに食べられる地元のあらかわ産のものがおいしい。 消費者に対して・・・安いものや、ブランドの名前に左右されず、おいしい物を食べてほしい。おいしいと思ってすすめても、食べ方を知らないと食べてもらえないから、おいしい食べ方を知らせたい。直売所は、作った人の顔が分かるからごまかせない。「あの人の作ったものはおいしい。」と言われるために日々頑張っている。 5年生に対して・・・「おいしく食べてもらえるように」と、どの農家さんも頑張っていることを伝える。消費者と生産者の「架け橋」になってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかわの生産者の方は、地域の消費者においしい物を食べてほしいと思っているんだ。相手意識 ・地産地消のよさを伝えたい。思い・願い ・野菜の食べ方を知ってもらいたいって言っていたね。思い・願い ・おいしい野菜を地域の人にもっと知って、たくさん食べて欲しいんだね。思い・願い ・消費者は、安全で、栄養があつて、おいしい、安いものを求めているね。思い・願い 	<p>○発問 生産者の齋藤さんや玉木さんは、みんなと同じ「相手」や「思い・願い」で生産をしているのでしょうか。</p> <p>教科とつなぐ (社会) 社会科の見方・考え方「人々の工夫・努力、思い・願いに着目する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の方が話している映像を流す。 ・生産者の思い・願いを考えさせる。 ・映像から分かったことを発表させる。 ・出てきた意見を「生産者の思い」として、構造的に板書する。その際、「相手意識」「思い・願い」を明確にしていく。構造的な板書 <p>○発問 「思い・願い」を比べて、同じところや違うところがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5年生の思い」「生産者の思い」を比較させ、ズレを実感させる。「比較」の見方・考え方 ・伝えるべき相手は、「地域の消費者」であることを確認する。 ・消費者の立場としての願い（家の人、小学生）を、掲示物等から想起させる。
<p>5</p>	<p>3 「生産者の思い」から、課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の消費者に、あらかわ農産物のよさを伝えたい。→生産者の力になりたいから。 ・地産地消のよさを伝えたい。→そうすることは、生産者にとっても、消費者にとっても得だから。 ・野菜のおいしさや、おいしい食べ方を知ってもらいたい。→それは生産者の願いでもあり、消費者にとってもうれしいことだから。 <p>学習課題 私たちが、「架け橋」として地域の消費者に伝えなければならないことは何か。</p>	<p>○発問 架け橋と聞いて、どんなことを感じましたか。</p> <p>思い・願いの共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由や活動の価値を問い返す。活動の価値を考え、深める ・生産者の活動の目的は消費者のためでもあることを確認する。教科とつなぐ (社会) 他者とつなぐ (消費者)
<p>8</p>	<p>4 情報整理のための思考ツールを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える相手は消費者だから、消費者が知らない情報を伝える必要があるな。 ・消費者が知っている、生産者だけが知っている、で伝えたい内容を考えるから、ベン図が使いそうだな。 	<p>○発問 どんな思考ツールが使いそうですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いにより、ツールの有効性を確認する。→ベン図 ・これまでの発表と、4年生の総合で「相手が知らなかったことに着目して伝えた」経験を想起させる。過去の学びとつなぐ 思考ツールの有効性を問う発問

